

携帯型無線 IP 電話の導入について

平成 16 年 11 月 26 日

帝国石油株式会社

帝国石油株式会社（社長：磯野 啓）は、このたび、本社、技術研究所、新潟、長岡、柏崎の国内主要 5 拠点の音声通話を、これまで各所の電話交換機（PBX）で制御していたシステムに代わって、VoIP（IP 網上に音声を通すための技術の総称）により本社で集中制御する「IP セントレックスシステム」を導入するとともに、無線 LAN を活用した携帯型 IP 電話を 5 拠点で全面的に導入することにいたしました。

本システムでは、5 拠点の社屋内ならどこでも使える NEC 社製携帯型無線 IP 電話約 450 台を一人一台導入し、また一部、社外でもそのまま携帯電話として使える FOMA(R)/無線 LAN デュアル端末を導入します。これにより異動先でも同じ個人内線番号を継続利用できる「一人一固定番号制」で番号変更にかかる工数や労力を削減してシステム運用管理の効率化を図るとともに、無線 LAN 導入により電話配線工事の削減も実現することができます。システムの稼動開始時期は、本年 12 月の予定です。

帝国石油では電力およびガス市場の規制改革にともない、企業としての競争力の一層の強化が求められる中、石油・天然ガス業界で初めての取り組みとなる「企業内モバイルセントレックス環境」の導入により、主要 5 拠点における年間の通話関連コストを約 3 割（試算）削減するとともに、自分の携帯型 IP 電話を会社内で持ち運べるというワークスタイルの変革による意思決定の迅速化、業務の効率化を推進していこうと考えています。

以上